

別紙1 事務事業評価(中間評価)シート【令和5年度】

主管課名(担当名)	図書館奉仕担当			
事務事業名	子どもブックライフ応援事業		事業番号	12741
重点プロジェクト	■該当 □非該当	評価時期	■中間 □事後	事務区分 ■自治 □法定受託

1 施策体系

施策体系との関連	施策区分	3-1 家庭教育の充実
	施策目標	子どもたちの未来を育む家庭環境の充実したまち

2 事務事業の概要と目的

対 象	事務や事業が対象としている人や団体など	市内在住の子ども～大人まで
	対象者の今後の予想	人口減により減少傾向
活動内容 (事業の概要や具体的な内容、方法など)	7ヵ月児親子に読み聞かせ体験と共に絵本を2冊親子に贈る「ブックスタート事業」、1年生全員に本を贈る「セカンドブック事業」、絵本講演会等を行う。	
意 図 (どの様な成果を得ようとしているのか)	絵本を仲立ちにして親子の触れ合いの促進と、根室の将来を担う子どもたちの潜在能力を高め、家庭生活と子育て支援として楽しい読書の機会を提供する。	

3 事務事業の現状

活動指標名		計画値 (27)	実績値					目標値 (R2)	目標値 (R7)
			R1	R2	R3	R4	R5		
1	1日1時間以上家庭学習をしている児童の割合(小学校6年生)	52.8%	46.9%	62.5%	56.0%	39.2%	44.5%	85.0%	100.0%
2	1日1時間以上家庭学習をしている児童の割合(中学校3年生)	54.7%	44.4%	44.8%	51.0%	32.2%	38.2%	70.0%	100.0%
3	家や図書館などで1日30分以上読書をしている児童の割合(小学校6年生)	36.2%	31.9%	38.1%	21.0%	22.3%	26.7%	50.0%	100.0%
4	家や図書館などで1日30分以上読書をしている児童の割合(中学校3年生)	32.3%	28.4%	25.3%	27.0%	22.7%	31.0%	50.0%	100.0%
事業費（＝下記内訳計）				R5予算		R5決算		R6予算	
内訳	国庫支出金			※再掲（事業費は3-2で計上）					
	地方債								
	その他								
	一般財源								
人員(人工)									
職員人件費		(＝人員(人工)×	7,455 千円)						
総事業費（＝事業費＋職員人件費）									
単位コスト実績値 1（＝総事業費÷成果実績値）									
単位コスト実績値 2（＝総事業費÷成果実績値）									
単位コスト実績値 3（＝総事業費÷成果実績値）									
単位コスト実績値 4（＝総事業費÷成果実績値）									

4 事務事業の見直し状況や行政課題など

(事前評価にかかげた課題について記入)

見直し状況	☐ 検討中 ☒ 見直し・改善済み ☐ 見直しをしたが改善に至っていない ☐ 検討していない
見直しの内容など	平成30年度から「ブックスタート事業」と「セカンドブック事業」を統合し、さらに絵本講演会等を開催する「子どもブックライフ応援事業」として事業をリニューアルし、その内容を充実させた。
今後の動向・市民ニーズなど	「ブックスタート事業」・「セカンドブック事業」・「子どもブックライフ応援事業」の絵本講演会についてはすべて継続要望が高いため事業の継続が望まれる。

5 事務事業の評価

ア. 意図する成果に有効に結びついていますか	☒ 結びついている ☐ 一部結びついている ☐ 結びついていない 令和5年度において対象者への送付も含め、7ヶ月乳幼児親子109組、市内小学校1年生144名に本を贈呈し、絵本ライブやワークショップには393人の子供が、人形劇には大人や子どもまで99人が参加するなど、読書を楽しむ環境づくりに結びついている。
イ. 市以外がその事業に取り組むことは可能ですか(民間、NPO等)	☐ 可能 ☐ 一部可能 ☒ 不可能 図書館ボランティアを活用した事業であり、市以外が事業に取り組むことは不可能と判断する。
ウ. 事業内容の中で、見直しを行う必要はありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない 「ブックスタート事業」と「セカンドブック事業」を統合し、新事業としての充実を図っているため、現状では見直しを行う必要はないと判断する。
エ. 単位コストまたは事業費を工夫できるアイデアはありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない 「ブックスタート事業」は特定非営利活動法人からスタートパックを購入することで、既に市場価格より抑えた形で購入している。
オ. 他の事業との統合について可能性がありますか	☐ ある ☐ 一部ある ☒ ない 「ブックスタート事業」と「セカンドブック事業」を統合し、新事業として年齢に応じた読書活動支援が十分できているため、統合の可能性はない。
カ. 受益者に負担をいただく(又は負担を見直す)可能性はありますか	☐ ある ☐ 検討の必要性がある ☒ ない ☐ 既に負担がある 贈呈する本を有料化すると受け取らない親子も出てくることが予想され、本を送るという公平性が失われる可能性があり、事業目的が達成されないことにつながるため、受益者に負担する可能性はない。

6 事務事業の今後の方向性

今後の方向性	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しのうえで継続 (☐ 拡充 ☐ 手段を見直す ☐ 効率化 ☐ 簡素化 ☐ 統合・振替) ☐ 終期設定あり (R 年度末終了予定) ☐ 休止 ☐ 廃止 ☐ 完了
--------	---

作成年月日

令和6年9月